

書写教育の過去・現在・未来

日時：令和4年9月18日(日) 14:00～15:40

会場：静岡大学教育学部(静岡キャンパス)

人文棟 人文大講義室

(静岡県静岡市駿河区大谷 836)

講師：宮澤正明先生(本学会会長・山梨大学名誉教授)

※講演会は 事前申込制

(学会員以外は資料代として1000円をいただきます)

<概要>

昭和33年の学習指導要領改訂で、「文字を書く学習」を小・中学校国語科書写に位置づけた。ここに書写教育が始まった。それ以降、学習指導要領は時代や社会、学校教育などの要請に応えるようにほぼ10年おきに改訂され、60余年を経過して今日に至っている。この間、昭和50年代、中・高校生を中心にいわゆる「マンガ字」が流行し社会問題にも発展した。それとほぼ同時期にワープロ、パソコン、携帯電話などが陸続と誕生し普及した。それらが書き文字や書写教育に与えてきた影響は計り知れない。そして今日ではいわゆる「美文字」が流行し、社会における書き文字に影響を与えつつある。

書写教育は「不易」の部分(「文字を正しく整えて速くそして読みやすく書く」ための知識と技能)だけではなく、「流行」の部分(時代思潮の変化、文明の利器の発展、流行文字など)もあり、これらは決して分離できるものではない。その反映が学習指導要領であり教科書であるとも言えよう。

日常生活の中で書き文字が減少する中、「不易」と「流行」を見据えつつ、今後の小・中学校国語科書写が果たす役割を考えてみたい。

主催：全国大学書写書道教育学会 後援：静岡県教育委員会・静岡市教育委員会

問い合わせ先 TEL/FAX：054-238-4587(静岡大学教育学部・杉崎哲子)

E-mail：sugizaki.satoko@shizuoka.ac.jp



学会員以外の方は左のQRコードから事前にお申込みください。(9月9日(金)12:00まで)

<https://forms.gle/xUupnYMa2nDyd4cU8>